



二十六聖人

令和4年4月号

(令和4年3月27日発行)

教会だより

2022. 4 No. 346

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296
<http://www.futamatagawa-cc.com/>
主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

架上七言

突然ですが、信者の皆さんは「架上七言」ということをご存知ですか。これはイエス様が十字架上でおっしゃった御言葉で、韓国教会では四旬節の間、これらの御言葉についてよく黙想したりします。今年の四旬節は3月2日から始まり、4月17日が復活祭となります。そこで今月の『二十六聖人』の巻頭言では、イエス様の「架上七言」について分かち合い、信者の皆さんと共にイエス様の復活を準備したいと思います。

1. 「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」 (ルカ 23, 34) イエス様は十字架上でも、ご自身を十字架に釘づけた人たちのために祈られました。生まれる前から、世の中の力ある人たちからの反対的となっておられたイエス様は、わたしたちの様々な人間的な弱さと、その弱さから犯す全ての罪をご存じです。そして、いつもわたしたちのために御父のお赦しを祈っておられます。その大きな恵みをいただいているわたしたちに、赦せない罪や咎があってははいけません。

2. 「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる。」 (ルカ 23, 43) イエス様の十字架の左右には2人の悪人が、イエス様と共に十字架刑を受けていました。その中の1人はイエス様を嘲り、悔い改めようとはしませんでした。しかし、もう1人の人は自分を悔い改めながら、イエス様の慈しみを願ったわけです。その時、イエス様は彼を赦し、永遠の楽園に入ることを約束してくださいました。自分をへりくだり、また、悔い改めることの大事さが分かります。イエス様はその人と共におられ、ご自分の国への道に導いてくださるからです。

3. 「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です。見なさい。あなたの母です。」 (ヨハネ 19, 26~27) イエス様の十字架の下には、母マリアと何人かの婦人たち、そして、イエス様が愛された1人の弟子がいました。その時、イエス様は先ず、母マリアにその弟子を新しい子供として任せ、同じく、その弟子には母マリアを新しい母として任せられました。その時から、その弟子はマリアを自分の家に受け入れましたが、こうしてイエス様は、新しい親子の絆を結んでくださったでしょう。この出来事を通して、神様の子供たちである教会はマリアに任せられ、マリアは教会の母となられたわけです。あらゆる理由で教会から離れている人のことで、イエス様はどれほど苦しんでおられるでしょう。その理由が何かにかかわらず、彼らのためにわたしたちができることを果たすのは、イエス様の苦しみを共にするわたしたちの当たり前役目だと思います。

4. 「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」(マタイ 27, 46) または、「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ。」(マルコ 15, 34) これは「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか。」という意味の御言葉です。これを聞いた人たちは、イエス様がエリヤを呼んでいると思い、彼がイエス様を助けに来るかどうかを試そうとしていました。しかし、イエス様は御父を呼び、助けを求められたのです。人間の救いのために、自ら人間となられたイエス様も、死の前では、ただ1人の人間だったのでしょうか。しかし、この御言葉は、一見、神様を恨んでいるように聞こえますが、逆に、神様への強い信仰を表しています。つまり、神様は確かにおられる方で、助けを求める人を失望させる方ではないということです。わたしたちはどんな状況の中でも、神様だけに信頼と希望を置いて、この世の中で生きていくべきです。

5. 「渴く。」(ヨハネ 19, 28) 木曜日の夜、最後の晩さんを終え、園の中で祈っておられたイエス様はユダに裏切られ、兵士たちに逮捕されました。彼らはイエス様を引き、先ず大祭司のところへ行き、それからピラトのもとへ引っ張って行きました。そして、イエス様は十字架の道をたどり、ついに、ゴルゴタで十字架に釘づけられました。その間、イエス様はどれほど渴きを覚えられたでしょう。しかし、イエス様の渴きはただ水への渴きではなく、人間の信仰、愛への渴きだったに違いありません。わたしたちの素朴な信仰と愛の生き方によって、その渴きは癒やされるでしょう。

6. 「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」(ルカ 23, 46) イエス様はご自分の最後の時が到来してくるのが分かったとき、ご自分の霊を御父のみ手にゆだねながら祈られました。その霊は神様ご自分の霊で、イエス様は天地創造の前から、御父とその霊と一緒にいました。そして、その一致、つまり、愛の交わりの栄光に再び与えられる時、ご自分の霊を御父にゆだねられたのです。わたしたちも神様の愛の交わりに与るよう招かれていて、それこそがわたしたちが希望すべき賜物なのです。

7. 「成し遂げられた。」(ヨハネ 19, 30) 最後に、イエス様はご自分の使命を果たし、全てを成し遂げられました。人間を罪と死から解放するため、自ら命を捧げられたイエス様は、十字架によってその救いの計画が成し遂げられたことを宣言なさいました。十字架は人間に向かう神様の慈しみと愛の象徴であり、その報いは復活と永遠の命なのです。わたしたちの日々の十字架も、神様と隣人への愛の表現です。十字架無くして、復活はあり得ないでしょう。その十字架を担うことによって、わたしたちもイエス様の復活と永遠の命に与れることを信じ、これからも信仰の道を歩み続けたいと思います。主任司祭 ヤコブ 姜 真求



3月教会委員会報告

【司祭】3月29日にナン神学生が「朗読奉仕者」の職務をいただくこととなります。これは、司教様が授ける職務で、公式的にミサで「み言葉」を読むことが出来ます。また、責任者の指導の元で、教理を教えることが出来ます。大事な職務ですので、信者の皆さんのお祈りが必要です。ナン神学生の事を考えながら、私たちもいっそう「み言葉」に近づく事が出来るように、各々、努めていただきたいと思います。四旬節の間、信者の皆さんの霊魂が、神様からの豊かな恵みによって信仰的に鼓舞される事が出来るようにお祈り致します。

【今月の検討項目】

1. 信徒集会に関して： 2月27日(日)13:00-14:00にて信徒集会を開催致しました。出席者は、教会委員、地区世話人連絡室、地区世話人、信徒数名(参加希望者)と感染対策に留意した開催となりました。信徒集会での内容は、信徒集会資料を参照いただければと思います。質疑応答では、教会に来られない方たちへのサポートが必要ではないかという要望がありました。

(検討内容) コロナ禍で教会と繋がるための行動が見えない事を残念に思っている方もいらっしゃると思います。決まっている役割に拘るのではなく、地区の信者さん達の靈的ケアを神父様と地区世話人とが一緒に考える必要があるように思います。教会委員会として、例えば「ヨゼフ会」が高齢の信者さんたちにどのように向き合えるか、「教会学校」は登録されていない子供たちをどのようにケアすれば良いか等を、役割ではなく、それぞれの立場で考え提案し、「わかちあう」ことで改善策を考える事が大切だと思います。一步一步進めるためにも提案をお願いします。

2. シノドス(世界代表司教会議) 質問回答の進め方

「テーマ: とともに歩む教会のため—交わり、参加、そして宣教」

・シノドスに関するアンケート回答を小教区毎にまとめて、4月5日までに第三地区事務局に提出する必要があります。他小教区の状況も参考にしながら順次纏め作業を進めます。まとめ作業の効率も考え、メールでの回答も可能である旨を「教会委員」と「地区世話人」の方に案内します。

◇「シノドス」を良く理解する為には「カトリック中央評議会」の下記 URL を参照下さい。

<https://www.cbcj.catholic.jp/2021/11/08/23317/>

*「シノドスの歩みはじまる」でも検索できます。

3. その他

- ・アウグスティヌス水上健次助祭(山手教会出身)の司祭叙階に関して:
 - *「叙階の為のお祈り」はミサ前に行っています。
 - *「靈的花束」の案内は3月5日(土)~3月13日(日)に行い、聖堂後ろに回収用の箱を用意しました。
- ・信徒提案ステンドグラスに関して: 設置可否の判断をするための資料・情報収集は「建物管理委員会」主体で実施します。

【その他検討確認事項】

『事務所』

- ・地区活動支援に関しては、2016年から懇親会等の茶菓子代として年間5,000円(地区毎)としてスタートしており、要請のある地区に支出しています。

『各委員会報告』

(典礼委員会)

- ・四旬節中の十字架の道行きは、4月15日の聖金曜日14:30から行います。典礼から、「掲示板」と「今週のお知らせ」で皆様にお知らせ致します。
- ・聖なる3日間に侍者・先唱・聖体奉仕者の方達に簡単な夕食を用意しますので計画表を提出致します。
 - *感染症対策に留意し、黙食とします。

(キリスト教講座)

- ・2月26日(土)に委員会を開催致しました。(志願式・洗礼式・入門講座内容の打合せ)
- ・3月6日(日)11:00ミサの中で4名の入信志願式を行いました。

(教会学校)

- ・初聖体クラスが3月6日(日)10時からスタートしました。対象者は2名です。
 - ・3月27日(日)に「教会学校と青年と共に捧げるミサ」と、小・中・高の卒業式を予定。
- (福祉委員会): 引き続き『二十六聖人』に各献金先からのお礼状を掲載する予定です。

(共同墓地管理委員会)

- ・4教会共同墓地委員会が開催されます。(3/20(日)15:00~ 8名程度 二俣川教会) 他教会の方も含まれますので、感染症対策は二俣川教会集会室ルールに則り開催致します。

(マリア会)

・『二十六聖人』の「マリア会通信」の内容を、お知らせや活動報告のみではなく、例えば料理やおやつの事など別の事を含めながら工夫した内容にして、繋がりの輪を広げたいと思います。

(インターファミリーグループ)

- ・ミーティング日程の変更(2月20日(日) → 3月13日(日) 12:00~)
- ・「~シノドスって?そして、シノドスへ向けての歩み~ 第1回」の英語訳・ベトナム語訳が出来ましたのでメンバーと分かち合います。
- ・インターファミリーグループの方達で墓地に関して知りたいとの意見がありますので、意見や疑問点などを取り纏めます。ご協力をお願いします。

(第三地区委員会)

- ・第三地区共同司牧委員会開催: 4月24日(日) 15時~ (於: 磯子教会)
7月10日(日) 15時~ (於: 二俣川教会)

以上



福祉委員会からの報告(2)

昨年の年末福祉献金先からお手紙が届きました。

今回は、海外から日本にデカセギに来た親を持つ青少年たち(デカセギ第2世代)や国際結婚で生まれた「外国にルーツがある子ども」たちなどを対象とした無料の学習支援教室を行っている、「わたぼうし教室」からのお手紙を紹介いたします。(一部抜粋)

カトリック二俣川教会の皆様

この度はご厚意にあずかりまして本当にありがとうございました。2021年度の活動報告をお送りしたいとおもっておりましたため、お手紙がおそくなりましたこととお詫び申し上げます。

私たちはコロナ禍でも毎週、外国にルーツがある子どもたちへの学習支援活動を続けております。学級閉鎖や休校になり、宿題が出て一人でも学習できない子どもたちが多くいますので、子どもたちのために、頂戴いたしましたご寄付を大切に使用させていただきます。

本当にありがとうございました。皆様のお幸せを心よりお祈り申し上げます。

わたぼうし教室
O. A.

【2021年活動報告】

・学習支援事業

開催日: 毎週土曜日 午前10時~12時

場所: 横浜市国際交流協会「みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ」

内容: 「日本語学習支援」「教科学習支援」「各種課外授業」「クリスマス会」など

学習者: 登録数65人(中国、フィリピン、タイ、ナイジェリア、ミャンマー)

スタッフ: 51人(フィリピン、中国、日本、マレーシア、韓国、イラン、カメルーン)

～シノドスへの準備のための 10 の質問より～

第 2 回

③ 「声に出すこと」

わたしたちの生活の中で、また地域社会やその団体の中で、福音の価値を公に伝える場面がありますか。そのために、何が助けと妨げになるでしょうか。社会に対して、誰が教会を代表して発言しますか。

（姜神父様のコメント）

シノドスの手引き書には詳しく書かれており、「勇気と大胆さ、つまり、自由、真理といつくしみを統合して話すよう、すべての人は招かれています。」とあります。私たちとはあまり関係のない質問のように感じるかもしれませんが、これはとても大事な質問です。

洗礼を受けている私たちはイエス様から 3 つの職務に与ることになります。その中の一つが預言職です。この世の中の様々な動き・流れ・声を、キリスト信者としてどのように受け止め判断すべきかということ、そしてどのようにキリスト教の教えと価値を述べ伝えるかという質問です。例えば、自分の職場・学校などで不正義やいじめに合っている人たちをどう弁護するか、仲間となるかなども全部含んだ質問です。社会や政府といった大きな問題だけではなく、日々の生活の中でカトリック教会の教えを素直に受け止め、それに基づいて判断し、発言するのをも含めて考えるべき質問です。

誰がキリスト教共同体を代表して発言しますかという部分は、司教様が私たちの本牧者ですので、司教様が道案内でもあり、歩むべき道を示してくださる事が一番大事な事です。小教区では司祭が示す必要があります。信者の皆さんは、それぞれが世の塩として光として周りの人に正しい道を示すべきと思います。このような事を考えて質問を受け止めて下さい。

強い人には弱くなる、弱い人には強くなるということが人間の本性の一つですが、強い立場にいる人がその権力によって弱い人を虐げる時、カトリック信者としてどのように行動するか。社会の中のみならず、教会の中でもちゃんと考えなければならない。教会の中にも気の強い人弱い人、強い立場にいる人そうではない人がいる。どのようにイエス様の正しい教えを訴えるか。これがこの質問の趣旨です。

④ 「祝うこと」

祈りと典礼において、信徒を含め、信者全体はどのように参加しているでしょうか。参加は進んでいるでしょうか。後退しているでしょうか。

（姜神父様のコメント）

祈りと教会共同体の典礼は実際にどのように私たちの共同体における共有された生活と宣教を刺激し、導いてくれるでしょうか。教会で行われる典礼というものが、私たちを本当に導いてくれるものになっていますか。ミサや典礼によって自分が正しい道に導かれることを信じますかという質問でもあります。また、この典礼が私たちの重要な決断をどのように励ましてくれますか。全信者の典礼への能動的参加をどう促進出来ているか、朗読奉仕と祭壇奉仕に加わるための空間が用意されているかという質問です。

質問には多くの要素が含まれています。ミサ・典礼を信じているか、儀式ではなく共同体を導いてくれる真のお祝いという認識があるか、み言葉とミサが私たちの重要な決断をどのように励ましてくれるか、ミサやみ言葉から私たちが鼓舞され一致する力が典礼から得られているかです。

典礼への能動的参加ですが、今は、決まった方が奉仕する事が当たり前になっていますが、本来は開かれたものでなければなりません。神様がこの典礼に全ての信者を招いてくださる大

事な賜物です。典礼奉仕は、人を選んで養成するのではなく、オープンな状態で養成する必要があります。神様から招かれたら、ハイと返事する勇気が必要ですし、その勇気を抑える雰囲気があってはなりません。空間の準備とは、講座などの教育という側面もありますが、人の内面的問題で、奉仕に向き合う心構えがあるか、また新しい奉仕者を受入れる雰囲気であるかの質問でもあります。

共に旅をする共同体となるために何が必要かを「シノドス」は聴いています。

キリスト教講座からのお知らせ

キリスト教を勉強したいと思い教会に来られた方のために入門講座を開講致します。お近くに関心をお持ちの方がいらしたら、是非お誘い下さい。

【入門講座】

- ・水曜日コース 10:00 ミサ後 ～ 12:30 5/11 から
- ・土曜日コース 15:00 ～ 16:30 5/14 から

申し込み用紙は、ロビーのレターケースの上と事務所に置いてあります。尚、『聖書』と『聖書 100 週間』の各講座の募集は、今年は行っておりません。

キリスト教講座委員会



マリア会通信 No. 115

桜の開花の便りも聞こえてくる季節になりました。今回のマリア会通信は、『ほめて認めてハッピーに』とのタイトルで、「ほめる達人」と言われる西村貴好氏の新聞掲載記事（朝日新聞 2016 年 1 月 1 日）を紹介させていただきます。

“「ほめる」とは人や物、出来事の価値を発見して伝えることです。ほめることに必要なのは観察力と変換力（例えば、でしゃばり → 世話好き行動力がある）そしてそれを伝える力です。「すごい」「さすが」「素晴らしい」という魔法の言葉を使うように心がけます。また感謝を伝えることもほめの重要な要素です。その人やその人がしてくれたことに価値を見つけ、それを伝えるのはとても大切なことです。”

まずは感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉で伝えることから始められれば、周りも自分も少しずつ変わっていくのではないのでしょうか。人との関係が楽しい生活になる為に、ほめあって過ごすよう心がけたいと思います。

お読みいただき、ありがとうございます。

マリア会 H. I.

【編集後記】

今月号の姜神父様の巻頭言、架上七言の最初のみ言葉は、創世記から現代に至るまで、私たち人間が心身ともに弱く、その弱さに負けて同じ間違いを繰り返してきたことを想起させます。主義主張ではなく隣人を愛すること。この四句節に再び現実のものとなった愚かな過ちが繰り返されないように、大切な命がこれ以上失われないように祈ってやみません。（S. O. 記）